

レニアスが米進出 初の海外 現地受注狙う



レニアスが製造している透明のパネル

樹脂部品製造のレニアス（三原市）は、米イリノイ州に営業拠点の100%子会社を設立した。海外に事業所を設けるのは初めて。北米市場で受注を伸ばし、2021年度に1500万ドル（約16億5千万円）の売上高を目指す。

シカゴ郊外のシャンパーグに2月、レニアス・アメ

リカを設立した。資本金は30万ドル（約3300万円）で3人体制。木を伐採する機械や小型ブルドーザーなどの運転席を守る透明のパネルを、現地のメーカーに提案して受注を伸ばす。

レニアスは、ポリカーボネート樹脂のパネルを三原工場（三原市）で一貫生産している。重さはガラスの

半分で、衝撃に強い。北米でも建設機械などのガラス部品を樹脂へ置き換えるニーズが増しており、素早く対応する。

国内では、全ての建機メーカーに部品を供給。14年には三原工場に新たな射出成形機を導入し、質の高い大型パネルの製造が可能になった。最近ではバスの後部窓や鉄道車両の窓など用途が広がり、中国や韓国でも取引を拡大している。

レニアスは「ニーズに対する反応を早め、さらに受注を伸ばしたい」としている。（榎本直樹）

